

3年次生 古典A

3年古典Aでは

『伊勢物語』「第九段 東下り」を活用し

“^{あづま}異郷の地にて遠く離れた^{みやこ}故郷を思う心”について

考察を行いました。

平安の当時、旅とはいったいどういうものだったのか。

^{あづまのくに}東国とは、^{みやこびと}京人にとってどういう土地だったのか。

同じ「河を渡る」という行為でも

人によって受け取り方はどう変化するのか。

和歌に詠まれた心を理解するために

本文に書かれた言葉と向き合いながら

試行錯誤してまとめた考察。

相手に“わかってもらう”のは、なかなか難しいですね。



小グループで報告します



グループ代表による全体発表です